

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第71期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 福留八ム株式会社

【英訳名】 FUKUTOME MEAT PACKERS, LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 福原治彦

【本店の所在の場所】 広島市西区草津港二丁目6番75号

【電話番号】 082(278)6161(代表)

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 経理部長 深町誠

【最寄りの連絡場所】 広島市西区草津港二丁目6番75号

【電話番号】 082(278)6161(代表)

【事務連絡者氏名】 常務執行役員 経理部長 深町誠

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第70期 第2四半期 連結累計期間	第71期 第2四半期 連結累計期間	第70期
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(百万円)	12,572	12,264	25,326
経常損失()	(百万円)	173	162	169
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失()	(百万円)	186	120	240
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	122	243	226
純資産額	(百万円)	4,245	4,105	4,348
総資産額	(百万円)	15,419	15,575	15,853
1株当たり四半期(当期)純損失 ()	(円)	55.86	36.17	71.93
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	27.5	26.4	27.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	17	70	349
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	151	47	290
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	209	198	64
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	2,048	2,339	2,515

回次		第70期 第2四半期 連結会計期間	第71期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純損失()	(円)	20.04	28.49

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「第2事業の状況2.事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、前第2四半期連結累計期間と収益の会計処理が異なることから、以下の経営成績に関する説明の売上高については、増減額及び前年同期比（％）を記載せずに説明しております。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に加え、感染力の強いデルタ株の流行により、緊急事態宣言等が延長されるなど、経済活動に制限がかかる状況が続いております。ワクチン接種の進展とともに経済・生産活動の再開に持ち直しが見られるものの、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大にともない、内食化が堅調に推移したものの、先行きへの不安からくる消費者の低価格・節約志向は厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や一部原材料価格の上昇、さらには原油価格の高騰に起因する動力費及び包装材料価格の上昇もあり、依然として厳しい環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、今期を2年目とした「中期経営計画2021年3月期 2023年3月期」において、「消費者ニーズにあった新たな商品開発と販売戦略の構築と実行」をテーマとして「商品開発の強化」、「販売戦略の構築と実行」、「新規市場へのチャレンジ」の三点に取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症拡大下において、消費者の食に関するライフスタイルの変容や消費行動は多様化し、様々な需要に対応するため、家庭内での消費に対応した商品展開や新商品の開発、さらには既存商品のブラッシュアップと拡販に取り組んでまいりました。

利益面につきましては、ここ数年来の競合他社との価格競争による販売単価の低下や原材料価格の上昇等による製造コスト増加の影響により収益が圧迫され、継続営業赤字を余儀なくされておりますが、営業キャッシュ・フローは継続して黒字で推移しております。引き続き、原材料価格の上昇や原油価格の高騰の影響が懸念されますが、早期黒字化に向けて中期経営計画に基づく施策展開をさらに加速し、原価低減、生産性改善による収益性のさらなる向上、体質強化に努めてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、122億64百万円(前年同四半期は125億72百万円)となりました。利益につきましては、営業損失は1億91百万円(前年同四半期は営業損失1億89百万円)、経常損失は1億62百万円(前年同四半期は経常損失1億73百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億20百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億86百万円)となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は2億83百万円減少しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業におきましては、既存商品をブラッシュアップした環境にやさしいエコトレイ使用の「野菜といっしょにシリーズ」の「うす切りパストラミハム」や豚肩ロース肉を使用した厚切りステーキタイプの「ハムステーキ」、昨年販売した「あらびきKING」の新シリーズ「あらびきKING レモン&パセリ」、「肉厚ハンバーグ」シリーズ等が堅調に推移いたしました。しかしながら、緊急事態宣言等の延長や夏場の天候不順も重なり、BBQ商材の中容量タイプやインスタ用商材等の販売が落ち込んだ事や収益認識会計基準の適用等により、売上高は減少しました。

その結果、売上高は54億16百万円（前年同四半期は58億10百万円）、セグメント利益（営業利益）は1億21百万円（前年同四半期比44.8%減）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は1億43百万円減少しております。

食肉事業

食肉事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大やデルタ株の流行の影響により外食需要は引き続き厳しさを極めるなか、国産豚肉の「八女もち豚」や輸入豚肉の「大麦仕上三元豚」を中心としたブランド商品提案を強化してまいりました。売上高につきましては、国産牛肉は出荷頭数の減少により高値で推移し、売上高は増加したものの、国産豚肉は、前年同四半期に比べ内食需要の高まりが落ち着いた事や夏季における発育不良に伴い出荷頭数が減ったことにより売上高は減少いたしました。輸入牛肉、輸入豚肉は堅調に推移し、北米産ビーフ等が売上を伸ばし、食肉事業全体の売上高は増加いたしました。利益につきましては、海外のコンテナや人手不足による入船遅れがあったものの、採算重視の販売に努めたことや仕入れの見直し、在庫の適正管理による余剰在庫の削減、さらには物流費等のコスト削減努力により前年同四半期を上回りました。

その結果、売上高は68億47百万円（前年同四半期は67億61百万円）、セグメント損失（営業損失）は26百万円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）1億24百万円）となりました。なお、収益認識会計基準の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高は1億40百万円減少しております。

（資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億77百万円減少の155億75百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ38百万円減少の62億51百万円となりました。主な要因は、商品及び製品37百万円、原材料及び貯蔵品40百万円、受取手形及び売掛金26百万円の増加と現金及び預金1億75百万円の減少によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2億38百万円減少の93億24百万円となりました。主な要因は、投資有価証券1億77百万円及び土地66百万円の減少によるものであります。

（負債の部）

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ34百万円減少の114億70百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2億30百万円増加の72億38百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金2億90百万円の増加と短期借入金34百万円の減少によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2億64百万円減少の42億31百万円となりました。主な要因は、長期借入金1億26百万円及び退職給付に係る負債64百万円の減少によるものであります。

（純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億43百万円減少の41億5百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金1億30百万円、利益剰余金1億20百万円の減少によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1億75百万円減少の23億39百万円（前連結会計年度比7.0%減）となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、70百万円（前第2四半期連結累計期間は17百万円の資金獲得）となりました。主な要因は、減価償却費2億63百万円、仕入債務の増加額2億21百万円と税金等調整前四半期純損失1億7百万円、退職給付に係る負債の減少額56百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、47百万円（前第2四半期連結累計期間は1億51百万円の資金使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1億61百万円及び有形固定資産の売却による収入1億21百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1億98百万円（前第2四半期連結累計期間は2億9百万円の資金使用）となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出1億61百万円によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億7百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の状況に重要な変更等はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,600,000
計	13,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,400,000	3,400,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数100株
計	3,400,000	3,400,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年9月30日		3,400,000		2,691		1,503

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
有限会社福留興産	広島市西区草津港2丁目6-75	1,042	31.25
福栄会	広島市西区草津港2丁目6-75	340	10.20
福原康彦	広島市西区	130	3.90
中島修治	広島市西区	78	2.34
株式会社フジ	愛媛県松山市宮西1丁目2-1	63	1.89
株式会社もみじ銀行	広島市中区胡町1-24	62	1.87
福原治彦	広島市西区	61	1.85
株式会社広島銀行	広島市中区紙屋町1丁目3-8	48	1.45
株式会社伊予銀行	愛媛県松山市南堀端町1	46	1.39
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神2丁目13-1	46	1.39
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前3丁目1-1	46	1.39
計	-	1,966	58.93

(注) 1. 福栄会は、当社の取引先企業で構成された持株会であります。
 2. 上表のほか当社所有の自己株式62千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 62,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,324,700	33,247	
単元未満株式	普通株式 12,400		
発行済株式総数	3,400,000		
総株主の議決権		33,247	

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 福留八ム株式会社	広島市西区草津港 二丁目6番75号	62,900		62,900	1.85
計		62,900		62,900	1.85

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権2個)あります。
 なお、当該株式数は [発行済株式] の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
代表取締役社長 営業統括本部長 兼 食肉本部、昂営業本部担当	代表取締役社長 営業本部、食肉本部、昂営業本部担当	福原 治彦	2021年8月1日
常務取締役 加工本部長	常務取締役 加工本部長 兼 広島工場長	砂田 誠	2021年8月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,635	2,459
受取手形及び売掛金	2,443	2,469
商品及び製品	932	969
仕掛品	45	48
原材料及び貯蔵品	203	243
その他	30	60
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	6,290	6,251
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,792	2,829
機械装置及び運搬具（純額）	884	881
土地	3,003	2,937
リース資産（純額）	157	131
建設仮勘定	11	4
その他	50	66
有形固定資産合計	6,900	6,850
無形固定資産	142	132
投資その他の資産		
投資有価証券	2,305	2,127
その他	365	363
貸倒引当金	152	149
投資その他の資産合計	2,519	2,341
固定資産合計	9,563	9,324
資産合計	15,853	15,575

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,074	2,365
短期借入金	4,094	4,059
未払法人税等	41	34
賞与引当金	159	159
その他	638	619
流動負債合計	7,008	7,238
固定負債		
長期借入金	2,033	1,906
役員退職慰労引当金	324	332
退職給付に係る負債	1,614	1,549
その他	524	443
固定負債合計	4,495	4,231
負債合計	11,504	11,470
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	538	659
自己株式	80	80
株主資本合計	3,575	3,454
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	788	658
退職給付に係る調整累計額	16	8
その他の包括利益累計額合計	772	649
非支配株主持分	0	0
純資産合計	4,348	4,105
負債純資産合計	15,853	15,575

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	12,572	12,264
売上原価	10,398	10,352
売上総利益	2,174	1,912
販売費及び一般管理費	2,363	2,103
営業損失()	189	191
営業外収益		
受取利息及び配当金	24	25
不動産賃貸料	29	27
その他	12	26
営業外収益合計	67	79
営業外費用		
支払利息	32	34
不動産賃貸費用	14	13
その他	4	2
営業外費用合計	51	50
経常損失()	173	162
特別利益		
固定資産売却益	-	54
特別利益合計	-	54
税金等調整前四半期純損失()	173	107
法人税、住民税及び事業税	12	13
法人税等合計	12	13
四半期純損失()	186	120
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失()	186	120

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失()	186	120
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	297	130
退職給付に係る調整額	11	7
その他の包括利益合計	309	122
四半期包括利益	122	243
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	122	243
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	173	107
減価償却費	262	263
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	37	7
貸倒引当金の増減額(は減少)	12	2
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	36	56
受取利息及び受取配当金	24	25
支払利息	32	34
固定資産売却益	-	54
補助金収入	-	12
売上債権の増減額(は増加)	22	26
棚卸資産の増減額(は増加)	24	80
仕入債務の増減額(は減少)	97	221
その他	79	63
小計	51	96
利息及び配当金の受取額	24	25
利息の支払額	33	34
補助金の受取額	-	1
法人税等の支払額	25	17
営業活動によるキャッシュ・フロー	17	70
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	127	161
有形固定資産の売却による収入	-	121
投資有価証券の取得による支出	7	7
無形固定資産の取得による支出	18	1
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	151	47
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	10	-
長期借入金の返済による支出	166	161
リース債務の返済による支出	32	36
財務活動によるキャッシュ・フロー	209	198
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	343	175
現金及び現金同等物の期首残高	2,392	2,515
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,048	2,339

【注記事項】

(会計方針の変更)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来、顧客に支払われる対価の一部を販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、これら顧客に支払われる対価は売上高から控除して表示しております。また、有償支給取引については、従来は支給先から受け取る対価を収益として認識しておりましたが、当該収益を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2億83百万円減少し、売上原価は53百万円、販売費及び一般管理費は2億29百万円それぞれ減少いたしました。また、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

2. 時価の算定に関する会計基準の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
給料手当	648百万円	628百万円
賞与引当金繰入額	99 "	96 "
退職給付費用	54 "	47 "
役員退職慰労引当金繰入額	8 "	7 "
荷造運搬費	575 "	555 "
販売奨励金	203 "	"

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	2,168百万円	2,459百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金	120 "	120 "
現金及び現金同等物	2,048百万円	2,339百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額
 該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
 後となるもの
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額
 該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
 後となるもの
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,810	6,761	12,572
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	5,810	6,761	12,572
セグメント利益又は損失()	219	124	94

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
 (差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	94
(注) 全社費用	284
四半期連結損益計算書の営業損失()	189

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	5,416	6,847	12,264
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	5,416	6,847	12,264
セグメント利益又は損失()	121	26	94

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
 (差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	94
全社費用(注)	286
四半期連結損益計算書の営業損失()	191

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの売上高の算定方法を同様に变更しております。利益又は損失については変更ありません。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「加工食品事業」の売上高は1億43百万円減少し、「食肉事業」の売上高は1億40百万円減少しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの主たる製品及びサービスとの関連は、次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
ハム・ソーセージ	4,607		4,607
加工食品	786		786
食肉		6,840	6,840
その他	22	7	29
顧客との契約から生じる収益	5,416	6,847	12,264
外部顧客への売上高	5,416	6,847	12,264

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純損失(円)	55.86	36.17
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(百万円)	186	120
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失(百万円)	186	120
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,337	3,337

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月11日

福留ハム株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

広島事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中原 晃 生

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 家元 清 文

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている福留ハム株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、福留ハム株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公

正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。